

JIA長野県クラブ

建築家通信

ARCHI
JOURNAL

VOL. 134

2026.9.1

特集

2026年度
夏のセミナー 松本市開催



まちづくり委員会主催 松本市まち歩きの様子 (2026.7.31)

地域材利活用について行政と意見交換会

地域材環境委員会

地域材活用に向けた
長野県取組について

長野県は、県土の約8割を森林が占める全国有数の森林県であり、森林面積、人工林面積ともに全国第3位を誇ります。全国の人工林がスギやヒノキを中心に構成される中、本県では東信地域をはじめとするカラマツや、松本地域・上伊那地域などに広く分布するアカマツなど、これらの多様な森林資源が本県の大きな特色となっています。

また、本県の本材生産量は57万 m^3 （令和2年）から65.7万 m^3 （令和6年）へと増加している一方で、製材品出荷量は9.1万 m^3 （令和2年）から8.3万 m^3 （令和6年）へと減少しており、建築用途などへの一層の県産材の利用拡大が課題となっています。こうした状況を踏まえ、森林資源の循環利用による持続可能な森林経営と県産材利用の拡大を推進するため、令和7年3月に「信州の豊かな森林と環境を守る県産材利用促進条例」を制定・施行しました。長野県では、条例に基づく基本方針となる「長野県内の建築物等における県産材利用方針」を策定し、県による県産材の率先利用をはじめ、建築物における県産材利用の促進や安定供給体制の整備、人材の確保・育成などに総合的に取り組み、県産材の利用拡大と森林資源の循環利用を通じて、持続可能な地域社会の実現を目指してまいります。

長野県林務部
県産材利用推進室

増井 僚

地域産材利活用の松本市の取り組み
について～ウッドファースト 先ず木
が使えるいから始めよう～

松本市民有林の主要樹種であるカラマツの蓄積量は320万 m^3 を超え、同じくアカマツも120万 m^3 を超えており、先人から引きついだ当市の森林資源も「育てる時代」から「利用する時代」へと移り変わっています。

このようななか当市では、従来の『松本市地域産材活用連絡会議』を令和7年度に『地域産材木造木質化プロジェクト会議』と改称し、全庁体制で、より具体的な成果を出すべく取り組みを進めています。

今後、計画されている松本市役所新庁舎をはじめその他施設についても、市民の皆様の幅広い共感と納得をいただきながら、部局連携し地域産材を積極的に取り入れていきたいと考えています。

また、当市の独自の取り組みとしては、市産材のストックヤードの設置や市有林カラマツのヤング係数調査等も始めているところです。

今後は、建築・設計士の皆様とも連携を強化させていただき、地域産材の活用を進めて参りたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

松本市 環境エネルギー部
森林環境課
森林専門官

秋山 巖

川上から川下をつなぐ取り組みや身近な話題

松本の市木は何でしょう？アカマツです。岩手県、岡山県、山口県の県木でもあり、日本国内多くの市町村のシンボルとして登録されています。それではアカマツはどのような木でしょう？と聞くと分からないと答える方が多いのでは？日本全国に分布していたアカマツは松食い虫被害などで現在は一部の地域の木となりつつあります。アカマツは昔から神事には欠かせない木で、不老長寿を意味すると言われ、門松や松明、能舞台、経木などに利用されてきました。リンゴ箱にはアカマツという地域もあるようです。信州にはカラマツもあり、近年は中大規模木造に適している事が理解され沢山出荷が始まっています。山側の職人たちも傷めないよう大事に伐採しています。

製材所も丁寧な仕事をしていますが事業所は年々少なくなっていて、「この機械が壊れたらおしまい」「後を継ぐ者がいないので」などと言うことを聞いています。原料がある県なのにもったいないですね。地域材を安定的に当たり前に使って行けば製材所も続けていける可能性が有ります。一度無くなってしまっただけは復活不可能です。ぜひ地元材に目を向けて頂き山側の職人、川中の職人、川下の職人が生きていける様にと感じます。



信州ウッドコーディネーター

星川 嘉諒

技術交流会

交流委員会

木は地域で、断熱材は国内で
～国産ストーンウールのご提案～

ROCKWOOLグループの「トライロック」は国産の玄武岩を溶かして繊維にした断熱材で、不燃材料の国土交通大臣認定を受けています。

2017年に竣工した福島県富岡町の断熱材工場をROCKWOOLグループが2021年に引き継ぎました。これまで流通していたロックウールとは異なり、鉄鋼スラグを使用せず、玄武岩を主原料に石油由来の原料を抑えた環境と日本の未来にやさしい製品です。製品は床・壁・屋根に分かれ、柱や大引の間に充填するものと、躯体の外側に張るものを組み合わせられます。この製品の強みは、外装材の選択肢が広がることです。トライロックを用いた外壁には防火構造30分・準耐火構造45分の大匠認定仕様があり、防火上の取扱いに適合すれば、木質仕上げも選択可能です。温湿度による寸法変化が小さい点も、外張りで納める際の利点です。また、ストーンウールへ直接の左官仕上げが可能で、独自の風合いを生み出すとともに、一部施工を省略することもできます。

地域材の意見交流会でもあったように長野県産材への取り組みが積極的なされており、長野県の木と、日本国内で製造される断熱材、二つを組み合わせた外皮を増やそうという思いで、まずは実物に触れていただける機会を県内でつくっていきます。



株式会社カネト

高見澤 崇

建築費高騰時代の構造選択と
コスト削減術

JIA長野県クラブ主催の夏のセミナーにて、「建築工事費高騰の時代の設計戦略」と題し、設計事務所の皆様を対象とした研修会を開催しました。建設費の高騰が続く中、設計者にはデザイン性や機能性に加え、事業予算に配慮した提案力が求められています。そこで今回は、S造（鉄骨造）とパナソニックの木造ハイブリッド工法「テクノストラクチャー」を比較しながら、建物用途や計画条件に応じた最適な構造選択の考え方をご紹介しました。大スパンや特殊な用途などS造の特長を活かすべき案件はS造を提案し、木造で対応可能な建物についてはテクノストラクチャー工法を活用することで、大空間と高い耐震性能を確保しながらVE提案によるコスト削減が可能となります。また、建物の軽量化により基礎工事の合理化が図れるほか、地盤改良についてもS造と比較して負担を抑えることができ、建築費全体の縮減につながる事例を紹介しました。さらに、テクノ梁の貫通穴を活用することで設備配管スペースを確保しやすく、天井高さを有効に確保できる点も大きな特長です。木造で大空間を実現しながらコストと性能を両立する設計の可能性について、多くの参加者と意見交換を行う有意義な機会となりました。

パナソニックハウジング
ソリューションズ株式会社

本多 浩二



新年度役員挨拶



代表
藤松 幹雄

2026年度より、JIA長野県クラブの代表を拝命いたしました藤松幹雄でございます。

本年度は、新たに7つの委員会による事業運営がスタートいたしました。専門の設計業務に携わる建築家である会員が力を持ち寄り、円滑に企画を進めることができた結果、7月30日は一日を通した4部構成の「夏のセミナー」を盛会のうちに開催することが出来ました。会員の主体的な取り組みと、法人会員の皆様の温かいご支援に心から感謝申し上げます。今後とも多彩な事業を企画し、ともに学び、交流を深めながら、参加することが楽しみとなるクラブづくりを目指してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



副代表
勝山 敏雄

藤松新体制で副代表に任命されました。副代表として執行部と会員の皆さんを繋ぐパイプ役となり、会員全員で協力し合える場づくりを心掛けていきたいという思いがあります。私は長野県クラブを信州の建築家の集まるサロンのように、建築が大好きな人達の集まる場で、皆それぞれの思いを好きなように語り、議論できる場としていきたいと考えています。また、長野県をはじめ他団体及び支部や、近隣の地域会との連携をはかり、会員の資質の向上と地域社会に於ける建築家の職能の確立と地方の建築家の活躍できる場の構築に向けた活動に取り組んでいきたいと思っています。



副代表
小宮山 吉登

副代表を引き続き仰せつかりました小宮山吉登です。

建築費の天井知らずの高騰や、AIの急速な浸透など、建築の設計・デザインを生業とする私たちを取り巻く環境は激変し、設計手法も大きく様変わりしつつあります。こんな時こそ建築家としての心得に立ち返ることが、次の一手につながると思います。協力会員の皆さんも含め、様々な経験や知見を持ち寄り、共有し、意見を交わし、互いに研鑽する。そして、建築の面白さと、社会や未来にとっての大切さを伝えていく。そんな場所がJIA長野県クラブだと思います。微力ながら盛り上げてまいりますので、皆さんとともに、建築家として一歩先を目指していきたいと思っています。



副代表
吉田 満

藤松新体制で副代表を仰せつかりました。力不足と自覚しておりますがどうぞ宜しくお願いいたします。副代表の担当は、総務委員会と表彰委員会になります。

総務委員会では主に「会の運営や会員増強、本部・支部との連携、倶楽部ニュースの配信、災害対策、民間・行政・関係団体との連携」と内容が多岐に渡ります。藤松代表、池森委員長の下でスムーズで魅力のある会の運営をサポートして行きたいと思っています。

また、表彰委員会では、隔年開催となり第5回JIA長野建築賞は来年開催となりました。

これまで経緯を引継ぎ品格のある賞となるように鎌田委員長と共に取り組んでいきたいと思っています。



副代表
下崎 明久

今期、藤松新代表体制のもとで副代表を仰せつかり、広報委員会と地域材環境委員会を担当させていただいております。初めての副代表であり、私に何ができるのか？何をすべきか？と自問の日々が続いていましたが、現時点では、基本的に担当委員会活動を裏で支えることが私の役割という考えに行きつき、表に立つ委員長の考えを尊重し、充実した活動が進められるように黒子として最大限に協力をして行きたいと思っています。もちろん超多忙な代表を支えることも忘れずに...です。まずは会員の皆さまに、各委員会活動に多数のご参加をお願いいたします。

編集後記

松本市で開催された2026年度夏のセミナーの特集号となりました。建築に関わる多様な立場の方々が学びあい、語り合うセミナーの雰囲気を少しでも誌面から感じていただければ幸いです。ご登壇、ご参加、ご協力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

広報委員会副委員長 武重 直人



公益社団法人 日本建築家協会・長野地域会

JIA長野県クラブ

編集人／武重 直人 発行人／藤松 幹雄

発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内

TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303

https://www.jia-nagano.com E-mail info@jia-nagano.com